



安保法制廃止・軍事費倍増・軍備強化を許さない・敵基地攻撃能力保持反対・9条守って平和外交を

立春を過ぎて上では春ですが大雪に見舞われました。降りしきる雪景色は美しいけれども困ったなあなどと思いつつ眺めておりました。皆様いかがお過ごしでしたか？ 雪といえばこの時期むくろ芽を出す蕗の薹を思い出すのですが、最近春野菜コーナーで菜花、蕗の薹、タラの芽、うるいを見つけました。さっそく天ぷらとお浸しです。寒気に耐え育つことで、独特的の苦みやえぐみを持っていますが自然の恵みが豊富な味覚の春ですね。

派閥から国会議員側への寄付を収支報告に記載せず訂正した「裏金」とみられる総額は5年分で約6億7千万円に達し3年分だけで90人を超す議員が関与とは。今さらですが立法府とは「国権の最高機関であって国の唯一の立法機関である」と憲法にあり思わず確認し情けなくなります。立法府の大不祥事であるにもかかわらず、自民党側からはまともな説明が一切ありません。野党は政治資金の裏金汚染に対し実態解明や政治資金規正法改正を求めていました。ぜひ結束し国会審議を主導して政治改革への道筋をつけ金権体質の一掃となるよう政治を動かしてほしいと期待しております。



2月のご案内

2月例会

日 時 2月 26 日 (月) 13:30~16:00

会 場 長池公園自然館 工作室（入口から左奥です）

内 容 「改憲の動き、情勢」を交流しましょう。

憲法審査会のテーマ、内容、各党の意見など 情報収集し
今私たちに求められている事など意見交換しましょう。

☆ お手持ちの資料など持参ください。

参加費 300 円

★新型コロナ感染症対策については、会館の指示に従ってご参加下さい。

マスクを使用しましょう。



2/19(月)18:30
戦争させない
9条壊すな 19日行動
議員会館前

堀之内駅前での宣伝
2/19(月)10:00~

9条守ろう
軍事費増やすず平和外交

2/18(日)14:00
八王子アクション
JR 八王子駅北口

2/18(日)14:30~
ご当地八王子の
萩生田光一氏に
NO！！大集会
八王子北口オクトーレ前
つながる八王子主催
市民連合 協力
中野晃一さん参加予定

1月の例会報告

- ① 会計報告をしました。
- ② 今月のテーマで話を聞き、その後、短時間の意見交換をしました。

講義内容についてはレジュメなどをホームページにアップしていますので詳細をご覧ください。

- ◎なぜ現状のガザ攻撃を止められないのか
- ◎ユダヤ人は欧米で活躍し支持されている。この影響があるのか？
- ◎ホロコーストの影響をいまも受けているのか？
- ◎ユダヤ人は追われ続けた民族。追われる恐怖か？

など意見交換しました。

なぜパレスチナで紛争？

1. ユダヤ人はパレスチナの先住民か？

1月の講師の清水さんに投稿頂きました

パレスチナはヨルダン川と地中海に挟まれた地域、古くはカナンと呼ばれたところである。もともとユダヤ人が住んでいた場所で、彼らが建てた古代イスラエル王国があった。国を失った彼らは離散し、ホロコーストで絶滅させられそうになったが、第二次大戦後、この故郷の地にイスラエルを再建して今に至っている。そう考えている人が多いようだが、実際はどうなのか。

パレスチナの名は「ペリシテ人の土地」に由来する。ユダヤ人の祖先はメソポタミア文明の地、ペルシャ湾に近いところに暮らしていたが、アブラハムが「カナンに行け。そこを与える」という神のお告げを聞いて移住するのが紀元前19世紀頃。しかしカナンは無人の原野ではなく、他の部族が住んでいた。

飢餓にみまわれたユダヤ人たちはエジプトに避難するが、そこで奴隸にされてしまう。エジプト脱出を率いたのが預言者モーゼであった。紀元前11世紀頃、ヤハウエ信仰（ユダヤ教の原型）を国教とする古代イスラエル人が古代イスラエル王国を建国。ダビデ、ソロモンという王が有名だが、彼らの存在を証明する考古学的証拠はない。旧約聖書に記されたこれらは、歴史ではなく、ユダヤの民とイスラエル建国の「物語」である。

古代イスラエル王国が滅んだ後、ここはローマ帝国の支配下に。そこに現れたのがイエスで、その教えるキリスト教はやがて帝国の国教となり全ヨーロッパに広がっていく一方、ユダヤ人たちは追放されて離散。キリスト教社会の中で、彼らは「キリスト殺し」として差別、迫害されることになった。



2. イスラエル建国の理不尽

フランス革命で「人権宣言」が採択されたものの、ユダヤ人差別はなくならない。産業革命で大資本が必要になると、金融業などで力を得た彼らに対する新たな差別が生まれた。迫害から逃れようと、ユダヤ人たちは故郷パレスチナに自分たちの国を作ろうと考えるのだが、そこはアラブ系の人たちが住む土地だった。

第一次大戦で、オスマン帝国を切り崩そうと、英国はアラブ民族の独立を約束し、反乱を起こさせる。その一方、パレスチナにユダヤ人の民族的郷土の建設を認める条件に、ユダヤ財閥から戦費を調達。しかも戦勝後は英仏露間でオスマン帝国領を分割する協定を結ぶという三枚舌の外交を展開した。

パレスチナを得た英国は、アラブとの約束を反故にしながら、スuez運河や油田などの権益をアラブ人から守るには、パレスチナにユダヤ人が多い方が好都合と考え、無制限の移民を認めた。1918年に6万人だったユダヤ人は、その後10年間で3倍になった。



第二次大戦が終わってホロコーストが明らかになり、ユダヤ人に同情が集まるようになるが、アラブの石油に依存する英国は、パレスチナへの入植を厳しく制限。移民船を追い返すのだが、漂流して沈没する船もあり、手に負えなくなった英國は1948年5月15日をもつて撤退すると宣言。

国際世論の高まりと米国の支援を背景に、47年11月、国連がパレスチナの三分割を決定。当時のパレスチナの人口は約197万で、うちユダヤ人は約60万人。3分の1に過ぎないユダヤ人が全土の56.5%をとることになり、パレスチナは内乱状態に陥った。ユダヤ人の軍事組織は、エルサレムへの補給路がアラブ人に攻撃されないよう、道沿いの村を攻撃して破壊、女性や子ども、老人らも容赦なく殺戮、70万ものパレスチナ人が難民となった。これはテロ行為にほかならない。そして英軍が撤退する前日、イスラエル建国が宣言された。

もともとユダヤ人がパレスチナの先住民だったわけではなく、旧約聖書の「神から与えられた」という記述も、信仰を共有する人間同士の間でしか通用しない感情に過ぎないものである。（しみずたけと）

➡ 後編はこのリンク先にてご覧ください。 <https://bessho9.info/box/palestine.html#naze>

